

指定管理者制度導入施設の将来ビジョン

施設名	ハーモニーパーク
所在地	速見郡日出町大字藤原5933番地
県の所管部局(課・室)	土木建築部公園・生活排水課
設置年月日	平成3年4月26日(設置から29年11ヶ月)※令和3年4月1日現在
設置目的	「体験」、「学習」、「発見」といった行為を通じて、人と自然との調和・融合(ハーモニー)を図る参加学習型の公園として設置。 公園施設の魅力アップのため、(株)サンリオを中心とした第三セクター(株)ハーモニーランドを設立し、公園施設建設に参画。(民間活力導入)
指定管理期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

【検討結果】

施設の今後のあり方

存続 (利活用)	存続 (整理統合)	廃止
理由	<p>【身近な自然とふれあう参加学習型の公園】 ○ハーモニーパークは、「体験」、「学習」、「発見」などを通じ、身近な自然とふれあう参加学習型の公園として設置されている。</p> <p>【フリーゾーン・実証展示林とハーモニーランドの一体性】 ○ハーモニーパークは、ハーモニーランド区域とフリーゾーン・実証展示林が一体的に構成されており、公園の効率的な管理運営及び来場者の安全性等を確保するため、ハーモニーランドを運営している(株)サンリオエンターテイメントと連携して利活用していく必要がある。</p> <p>【大分県にもたらされる経済効果】 ○ハーモニーパーク内にあるハーモニーランドは、園として重要な部分を占めており、令和元年度には入場者が50万人を越えている。県外客が多く(約70%)、県経済への波及効果は約100億円(H30年度)と試算されている。</p>	
管理方法の検討(存続の場合)	<p>【ハーモニーランド】 (株)サンリオエンターテイメントが持つキャラクターを中心にした様々なライブショーやイベントの開催、バラエティに富んだアトラクションの運営などを実施する。施設・設備は、来園者のニーズやトレンド、供用年数等を踏まえ整備を行う。</p> <p>【フリーゾーン・実証展示林】 計画的な園路の補修や遊具の更新、樹木の維持管理を行うことで、アフターコロナにおける快適なオープン空間としての魅力再生を図る。 実証展示林は、大分大学が立ち上げるベンチャー企業と連携しセルロースナノファイバーの原料(竹)を提供するとともに、伐採による良好な景観の保全に努める。併せて園路周辺施設の整備を行い、竹を使った工作教室の開催など、当初の設置目的である参加学習型の公園としての活用を目指す。</p> <p>【共通】 ハーモニーランドとフリーゾーン・実証展示林を一体的に管理することで、効率的な管理運営を行い経費の節減に努めるとともに、アンケート調査の実施等で利用者の意見を管理運営に反映させ、満足度を高めていく。</p>	

ビジョンの設定期間

ビジョンの設定期間	令和4年度～令和13年度	} 廃止の場合不要
次回策定(中間見直し)	令和8年度	
次回指定管理者公募予定	令和7年度(任意指定)	

存続の場合

1. 目指すべき施設像及び利用者像等

<p>施設像</p>	<p>【ハーモニーランド】 入場者の多くは、サンリオキャラクターとの触れ合いや、遊具利用を目的としているため、これまでどおりフェスティバルステージで様々なショーやイベントを開催していく。また、リピート率(約94%)を考慮して、リピーターを飽きさせないショーやイベントの多様化を図っていく。さらに、老朽化した遊具や園路を計画的に整備することで施設・設備を充実していく。 特にフェスティバルステージは、令和3年度に屋根等の改修工事が完了することから、これまで以上に民間企業等のイベントを誘致するなど利用促進を図っていく。 また、ハーモニーランド園内は高低差が大きいいため、危険と思われる箇所に手摺りや柵等を設置し、入場者の安全・安心を確保していく。</p> <p>【フリーゾーン・実証展示林】 オープンスペースを活用し、文化活動の発表会や音楽フェスの会場等、幅広い分野での交流の場として活用する。 実証展示林については、手付かずだった竹林等を専門家の助言を受けながら整備し、京都の嵐山にある「竹林の小径」を模した散策路を整備する。竹林伐採は、大分大学が立ち上げるベンチャー企業と連携し、セルロースナノファイバーの製造原料に活用してもらう。また、竹工芸の盛んな別府市に隣接している利点を生かし、豊富に生えている竹を活用した竹工芸の実演会や竹工芸教室を定期的で開催したり、民間企業と連携して(竹に関する)イベント等を実施する。樹木の適切な維持管理による周辺環境の整備と併せ、安全対策(坂路部の手摺り設置、転落防止のための竹柵設置)を講じるなどして、幅広い年齢層が安心して楽しめる空間づくりを進める。</p> <p>【共通】 フリーゾーン・実証展示林エリアの魅力向上を図り、ハーモニーランドを加えた3つのエリアがそれぞれの特性を生かすことで相乗効果を生み、更なる集客力の増加を目指す。</p>	
<p>利用者像</p>	<p>【ハーモニーランド】 現在は、小さな子ども連れのファミリー層が中心だが、友人連れの若年層をターゲットにしたイベント等を開催し、若年層の入場を増やしていく。 若年層を取り込むことができれば、ファミリー層と同程度のリピート率(94%)が期待できる。</p> <p>【フリーゾーン・実証展示林】 実証展示林・フリーゾーンは、竹林等を植林した自然豊かな景観が広がっているが、開園から30年経過したことで、自然景観を阻害する巨木等が林立した状態となっている。計画的に巨木等を間伐し、安全・安心して自然とふれあうスペースとして園路(散策路)等を整備することで、中高年齢層が利用の中心となる。 また、竹を使った工芸教室等を定期的で開催することで、子どもたち(小・中学生)の体験・学習・発見の場にもなり、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が利用者となる。</p>	
<p>定量的 目標達成指標</p>	<p>① ハーモニーランド入園者をフリーゾーンエリアに誘引</p>	<p>7割程度(現状:約5割) (新規目標設定)</p>
<p>定性的 目標達成指標</p>	<p>② 実証展示林エリアで開催する参加学習型イベント数の増</p>	<p>10回/年(現状:4回/年)</p>
	<p>①</p>	<p>ハーモニーパークの魅力を広く周知するための情報発信・広報の充実</p>
	<p>②</p>	<p>利用者ニーズを把握しハーモニーランドと連携した施設・設備の整備</p>
	<p>③</p>	<p>実証展示林エリアの効果的な活用による利用者の掘り起こし</p>

2. 目指すべき像を達成するための課題とその解決策、実施方法・実施時期(解決への優先順に記載)

課題1	人口減少・少子高齢化に関する課題
○少子化により、現在ハーモニーランド入場者の大半を占める子ども連れファミリー層の減少に対する対応	
解決策	○小さな子ども連れのファミリー層だけでなく若年層もターゲットにした新たなイベント等を開催するとともに、「かわいい」を意識した商品等の新規開発 ○SNS等を活用した広報 ○アフターコロナを見据えた中国、韓国等の外国人観光客の誘致
実施方法・実施時期	○若年層をターゲットにしたハロウィンでの夜間仮装ショーなどの新イベントの開催や、「かわいい」を意識したインスタ映えする景色(セット)、キャラクターグッズ、お土産、レストランメニューの開発(令和3年度～) ○情報拡散しやすいSNSで最新情報を随時発信(令和3年度～) ○東アジア文化都市2022おおいた等の各種イベントでのPR活動(令和4年度～)

(参考)	令和3年度(2021年度)	令和12年度(2030年度)	令和27年度(2045年度)	
予測利用者数(人)	560,000	522,745	459,514	
直近年度比		93.35%	82.06%	直近年度:令和元年度

課題2	施設管理に関する課題
○開園から30年が経過し、遊具をはじめとした施設・設備全般の老朽化の進行	
解決策	○アンケート等で利用者ニーズを把握した上で、施設・設備を更新 ○長寿命化計画に基づく計画的な施設・設備の更新 早期に対応することで施設・設備の長寿命化を図り、極力施設更新や大規模修繕を回避
実施方法・実施時期	○長寿命化計画に基づいた施設・設備の更新 ・園路の丸太階段更新(令和4年度～令和6年度) ・園路のテーブル更新(令和6年度～令和7年度) ・園路の丸太橋更新(令和8年度) ・園路の柵更新(令和6年度～令和9年度)

課題3	実証展示林に関する課題
	<p>○開園から30年経過し、実証展示林エリアの植樹木が巨大化するなどして自然景観を阻害しており、実証展示林エリアが有効に活用されていない。</p>
解決策	<p>○専門家の意見を参考に竹林等を定期的に伐採し、景観を改善</p> <p>○伐採後は散策路を整備し、公園機能を再生</p> <p>○伐採した樹木の有効活用</p>
実施方法・実施時期	<p>○定期的の間伐し、竹林をセルロースナノファイバーの原材料として活用(令和3年度～)</p> <p>○伐採後は、京都嵐山「竹林の小径」を模した散策路を整備し公園機能を再生し、実証展示林エリアへ入園者を誘引、ハーモニーランドとの相乗効果を画策(令和3年度～)</p> <p>○竹工芸教室等のイベントを開催して、実証展示林エリアが体験・学習・発見できる場所であることを啓蒙(令和4年度～)</p>